

# 業務改革を支える新基幹システム「Cress」を構築。 日立のエンタープライズサーバ「EP8000」を採用し 高信頼かつ環境変化に即応できるITインフラを実現

外資系企業の参入が相次ぐなど、市場での競争が一段と激しさを増す小売業界。今後の勝ち残りを図るためには、多様化する消費者ニーズへの迅速な対応が求められる。そのためには、タイムリーな商品供給や販売分析が行えるITインフラが不可欠だ。神奈川・静岡・山梨の各地域生協の共同事業を手がけるユーコープ事業連合（以下、ユーコープ）でも、2004年1月に新基幹システム「Cress（クレス）」を稼働させた。業務改革を推進し、競争力強化を実現していくのが狙いである。システムを支えるプラットフォームには、高性能・高信頼のエンタープライズサーバ「EP8000シリーズ」や拡張性に優れた統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」をはじめとする日立のサーバ群を採用。市場環境の変化にも柔軟に対応できる、新たな業務基盤の確立に成功している。



生活協同組合連合会  
ユーコープ事業連合  
情報システム部  
システム企画担当課長  
徳光 亮文氏

## 競争力強化を図るべく 店舗系基幹システムを刷新

コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしなど、6生協の共同事業を手がけるユーコープ。各会員生協の商品開発や調達・配送業務などのほか、情報システムの構築・運用も担当している。「ビジネスとITの一体化が進む中、情報システム部門が果たすべき役割も大きく変わりました。現在では業務の効率化をサポートするだけでなく、いかに経営に貢献するかが問われています」と徳光氏は語る。

商品品質の高さや安全性で高い支持を獲得している生協だが、最近ではライバル企業との競争も激化している。市場競争力を維持し続けるためには、消費者一人ひとりのニーズに応えられる品揃えと提供形態に柔軟に対応できるシステムが求められていた。

そこでユーコープでは、2002年より店舗事業を支える基幹システムの全面再構築に乗り出した。マスター管理・販売管理・商品補充・店舗システムなど、主要な業務基盤をすべて一新する大型プロジェクトである。

徳光氏はその背景を「共同購入・個配事業向けのシステムは再構築が進んでいた反面、店舗系については1980年代に構築したシステムを改修しながら使い続けてきました。

しかしこのままでは、新たなビジネス要件に応えることが難しい。そこで今後の店舗事業を支える新たな業務基盤を確立したいと考えたのです」と説明する。

## 環境変化に対応できる柔軟さと 高度な信頼性が要件に

新基幹システムの構築にあたっては、「店舗業務改革」「商品調達力強化」「事務コスト削減」「ITコスト削減」などの目標が掲げられた。高屋氏は「店舗の競争力を強化するためには、オペレーションの統一化や品揃えの充実、取引先との連携など、さまざまな要件を満たす必要があります。こうしたニーズに柔軟に対応できることが、重要な課題となりました」と語る。

もう一つのポイントとなったのが、信頼性・可用性の確保である。実は将来的な構想として、生鮮品などを取り扱う卸売市場と直接受発注を行うことも検討されていた。従来は午前中から夜間まではオンライン、夜間から深夜にかけてはバッチ処理という形で運用を行ってきたが、卸売市場との連携を実現するためには24時間のオンライン運用が必須となる。新たな業務プロセスに即応できるだけでなく、ノンストップで稼働できる信頼性・可用性も要求されたのだ。システム運用を担当する神戸氏は「新基幹



生活協同組合連合会  
ユーコープ事業連合  
情報システム部  
業務システム2課 課長  
高屋 友二郎氏



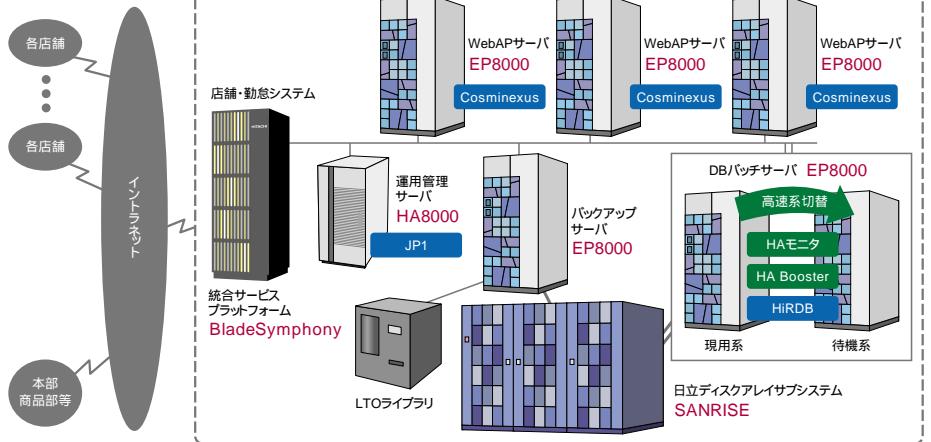
生活協同組合連合会  
ユーコープ事業連合  
情報システム部  
システム運用管理課 係長  
神戸 邦雄氏

## USER PROFILE

## 生活協同組合連合会ユーコープ事業連合

www.ucoop.or.jp

本部 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-11  
 設立 1989年3月14日  
 事業開始 1990年3月21日  
 出資金 420億円  
 組合員数 164万4,151名  
 コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなし・  
 浦賀生協・全日本海員生協・富士フィルム生協の  
 6会員生協に対し、店舗向け商品の開発・調達・配送  
 事業、カタログ・サービス商品開発事業、情報シス  
 テム事業などを提供している

システムには、メインフレームで構築された旧システムと同レベルの信頼性・可用性が求められました」と振り返る。

### 「EP8000シリーズ」を採用し 新基幹システム「Cress」を構築

こうした要件を満たせるプラットフォームとして選ばれたのが、日立のエンタープライズサーバ「EP8000シリーズ」である。EP8000は「Cressシステム」と名付けられた新基幹システムの中でも、販売管理や商品補充管理など、店舗への商品供給を支える重要な役割を担っている。

旧システムから大きく変わった点として、受発注データ量の大幅な増加がある。「事業分析をより精緻に行いたい」という要望を受け、Cressシステムでは百数十週分の受発注データを蓄積できるようにしました（高屋氏）。店舗からの受注件数は14万件/日、発注を行う取引先は370社/日にも上る。もちろんデータ量の増加により、オンラインやバッチ処理の性能が低下することは許されない。それだけにサーバのサイジング作業には、非常に気を遣ったという。

「日立に提案を求めたところ、EP8000なら大丈夫との回答がありました。その言葉を信じて正解でしたね。データ量が増加した

現在でも、所定時間内に問題なく処理を終えられます」と高屋氏は語る。

また、EP8000を中心としたシステムによりメインフレームと同等の高信頼性・高可用性も確保。神戸氏は「データベース・サーバには2台のEP8000 650を導入し、HA構成を採用しました。万一障害が発生した場合も、業務への影響を最小限に留めることができます」と語る。EP8000にはHAクラスタ管理ソフトウェア「HAモニタ」やAIX拡張機能「HA Booster Pack for AIX」、独自の系切替機構などが用意されており、これらを活用することで、最短十数秒という業界トップクラスの高速切替が実現できる。ミッションクリティカルなシステムを構築する上で、こうした機能が不可欠である。さらに総合システム運用管理「JP1」、Webアプリケーションサーバ「Cosminexus」、スケラブルデータベース「HiRDB」などの日立のオープンモジュールウェアが基幹業務を支えている。

### 「HiRDB Staticizer Option」で 複数業務の同時実行も実現

2005年5月には、新たな機能として「HiRDB Staticizer Option」が追加された。これはCressシステムに導入されている日立のディスクアレイサブシステム「SANRISE」のミラー

リング機能を利用し、HiRDBを利用する複数業務を同時に実行できるというものだ。

「新システムでは各店舗に分散している拠点サーバの統合もテーマになっており、日立の統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」への集約を進めています。一方、基幹系も店舗システムも同一のデータベースを使うようにしたいと考えたのですが、そのために現場の業務運用に影響が出るようでは困ります。たとえば基幹系のバッチ処理を始めるからといって、店舗システムからのオンラインアクセスを止めてしまうわけにはいきません（徳光氏）。

その点HiRDB Staticizer Optionを利用すれば、ミラーリングで作成されたレプリカを利用してオンライン、バッチ、メンテナンスなど複数の業務を同時に実行できる。これにより店舗システムの使い勝手に影響を及ぼすことなく、サーバ統合を推進することが可能になった。

Cressシステムが本格的に稼働したことで、市場環境変化にも柔軟に対応できる基盤が整った。今後現場の業務が大きく変わったとしても、システム側では余裕を持って対応できる。徳光氏は「日立はマスタープラン策定の段階からプロジェクトに参画し支援してくれました。EP8000をはじめとする製品の性能、信頼性にも満足しています。今後も日立の総合力に期待したいですね」と語った。

記載されている会社名、製品名は、各社の商標もしくは登録商標です

お問い合わせ

株式会社 日立製作所 エンタープライズサーバ事業部  
 TEL.03-5471-3270 FAX.03-5471-3271 www.hitachi.co.jp/EP8000

日立エンタープライズサーバ

EP8000